

猛暑 長野の市 2000年に1度の確率

7、8月の気温とその出現確率

	長野	松本	諏訪	飯田	軽井沢
今年	27.1	26.6	25.4	26.2	21.8
平年値	24.2	23.6	22.8	24.0	19.6
平年差	+2.9	+3.0	+2.6	+2.2	+2.2
標準偏差	0.87	0.92	0.86	0.79	0.90
出現確率	0.00043	0.00056	0.0013	0.0027	0.0073
再現期間	2300年	1800年	770年	370年	140年

(気象庁統計室)

原因は…深まるナゾ

今年の夏は、県内も二位の軽井沢を除いて観測史上最高の暑さを記録した。気象庁統計室の計算だと、長野の夏六―八月の三カ月平均気温の平年差一・三度は、統計的にはなんと約二千年に一度程度の出現確率の、異常な暑さだったと分かった。「背の高いチベット高気圧が現れた」「偏西風が平年より北に偏って流れた」など原因を説明されたが、「この秋、各地で開いた検討会などでの学者、専門家にによる検証では「今年のように広く、長く続いた直接の原因ではない」とナゾを深めている。



記録的な今年の猛暑。夏は涼しいはずの県内も、そっくり南国に引越したかのような暑さで、ビールが売れた(7月下旬、長野市内)

従来の要因で説明できぬ状況

検証進める研究者 新メカニズム指摘

舞われた。気象庁長期予報課などによると、日本の暑い夏は一般に▽西部太平洋の海面水温が高い▽熱帯での対流活動が盛ん▽春先のユーラシア大陸の雪氷の面積が広い

出現確率は三十年間(一九六一―九〇年)の平年値と標準偏差から求める。梅雨時の六月を外して最も暑かった七、八月の平均気温に限って見ると、長野は二七・一度と平年より二・九度高く、〇・〇〇〇四三で二千三百年に一度。松本は三・〇度高く、千八百年に一度、諏訪は七百七十年に一度の確率という(表参照)。

空梅雨、夏の干ばつも記録的、長野など県北部は平年の三〇％しか降らなかった。高温少雨域は、東アジア全体にも広がりヨーロッパも異常に暑い夏だった。逆に、ロシア西部、アメリカ中部は低温傾向、中国南部は洪水被害、南アジアはモンスーンの大雨に見

「などによってもたらされたのかもしれない」と見ると、今夏の各状況は、海面水温はエルニーニョ現象に近く西部太平洋は高くなかった、六月までの対流活動は不活発、雪氷も昨年と大きな違いはなかった。

波大教授は「チベット高気圧が北に発達し、日本への

た(同課・酒井重典予報官)、という。因は単独ではなく、アジアでは、特徴的な現象は何か。上空の南北の気団を調べている気象研究所の小出孝主任研究官は「ヨーロッパでプロキング現象が起こり、ジェット気流の飛び波がチベット高原を越えて、日本に熱波を波状的にもたらした」とし、西部太平洋の対流活動に注目している新田勲・東大気候システム研究センター教授は「西部太平洋だけでは説明できない。インド洋の対流活動が後押し、全国の専門家、研究者とともに原因を追究する準備を進めている。長期予報が裏目に出る大揺れの異常気象が続いているだけに、ぜひ実現してほしい研究だ。」

